

めざす児童像

みんなで「あいさつ」 みんなで「思いやり」 みんなで「自ら進んで」 一生懸命取り組む児童

※児童達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童	保護者			
学校重点項目 (学校で設定)	学び続け風土の醸成 職員	①～③の平均を80%以上にする。	① 子どもに向き合い教材準備をする日課の工夫をし、時間を創出する	100				・短時間OJTの機会以外にも、少人数の職員集団の良さを生かし、職員室での情報交換等を行う教員が増えている。	・一人一人の得意分野を生かした講師を務めてもらうように計画を立てる。
			② 効果的・効率的・実践的な短時間OJTを実施している。	100					
			③ ゴールを思い描く『憧れの教師像・同僚像・人生像』を設定し、めざしている。	90.9					
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童	保護者			
重点項目 石川県共通	働き方や業務の改善	①～③を90以上にする	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	100				・後期は月当たりの残業が80時間を超える職員はいなかった。 ・職員は勤務時間を意識し、設定した退校時刻までに終わるように業務内容を工夫している。	・定時退校日の取り組みが徹底されていない。個人の意識をさらに高めていくために、一斉に設定する今の形から個別の設定にする提案を教頭が1学期中に行う。
		② 校務分掌や業務の整理・統合・見直しが行われており、業務の平準化がなされている。	100						
		③ 最終退校時刻を設定して、児童の下校後意識して業務（特に教材研究）を進めている。	100						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
				教員	児童	保護者				
小松市共通重点項目	学校研究	②③の平均値が90%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	90.9				・研究に関わる算数の研修会は少なかった。 ・単元を通した算数的な活動、もっとしたくなるしかけなど子ども達にとって楽しい学習になるように授業改善は進んでいる。 ・評価プリントでは、A基準達成の児童にとってはより実践的な練習になり、B基準達成の児童や低学年にとっては問題を慣れるいい機会になった。	・学校研究の方法の見直しを行う。ICT活用技術を学ぶ研修でも、題材を算数にするなど、研究主題につながる手段を取り入れていく。年度当初に研究主任とGIGAスクール推進担当で提案し、年間計画に組み込む。 ・学力向上に結びついたかどうかを、評価問題と単元末テストで授業者が確認していく。	
			② 研究主題に迫る目指す授業像（児童像）を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100						
			③ 教職員一人一人が授業研究に主体的に取り組み、自校の授業改善に向けた取組を共有・実践している。	100						
			集計							
	指導力の向上	授業	③④⑥の児童の割合が、前期…80%以上 後期…85%以上 ③④⑤の教職員の割合が、90%以上	① 児童は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	100	93.2		-6.8	・子ども達は前期に引き続き前向きに肯定的に発表や記述に取り組んでいる気持ちがある。教員も、1学期に比べ、力がついてきたと感じている。 ・記述力においては、教員と児童の差が大きく、児童は感想やふり返りを書くことはできているが、学力面での「話がうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを考えて書く力」がやはりついていないのではないかと考えられる。 ・②⑤の教員と児童の差が前期と比べて小さくなっており、授業での学び合いができるようになってきたと考えられる。	・どんな文章が書けていたら、正しいのかしっかり指導していく必要がある。つけたい力の系統表を具体的なものに変えて研究主任が1学期中に提案する。 ・児童同士が直接向かい合っているの学び合いは感染状況を踏まえると難しい状況ではあるが、授業者はSKYMENUを活用した視覚的な意見交流を行うように務める。GIGAスクール推進担当はそのためのスキルアップ研修を夏季休業中を中心に行っていく。
				② 児童は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	100	92		-8		
				③ (発表力) 児童は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	72.7	84.4		11.7		
				④ (記述力) 児童は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	54.5	91.1		36.6		
				⑤ 児童は、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて（聞いて）自分の考えを持つことができている。	90.9	89.8		-1.1		
				⑥ 児童は振り返り活動の中で、授業の目標に沿って自分の変容を実感したり、学びに対する達成感をられたりしている。	100	92		-8		
	集計									
学力の定着	学力調査	②の教職員の割合が90%以上（分掌部会による検証実施）	① 学力の重点目標や具体的な取り組みは全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう取り組みは徹底して行っている。	100				・夏休み中に校内研修を行い、学力調査の分析と課題について確認し、記述力の育成するために、どの単元で重点的に指導するか、カリキュラムマップをもとに書き込みをするなどして見直しをすることができた。 ・活用力を図る評価問題を行い、検証することができた。 ・毎月カリキュラムマップをチェックし、単元の確認はしているが、記述力育成のための重点指導ができたかどうかの検証には至っていない。	・授業者は単元末テストと一緒に評価問題プリントをセットしておくことで、単元末テストと同じ時期に取り組みを徹底していく。 ・学力向上担当は1学期中に、記述力をつけるために重点的に指導する単元を確認し、授業者はそれをもとに共通実践を行っている。	
			② 学校力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	90.9						
			③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。（小中連携）	81.8						
			集計							
	家庭学習	①の児童の割合が85%以上	① 自分で計画を立てて勉強している（3年以上）	90.9	85.5	65.5	-5.4	・パワーアップ週間の取組結果から、時間・めあて・ノーマディアともに80%前後の児童ができていた。 ・自学ノートの取組については、パワーアップ週間の結果は、達成率75%前後であり、他の項目より低くなっている。	各担任はパワーアップ週間の機会に、よい取組を児童に紹介し、めざす姿を認識させる。	
② 児童の家庭学習の評価・指導を行っている			100		93.1					
集計										